

さいたま市長 12月定例記者会見

平成28年12月19日（月曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 埼玉新聞 こんにちは。12月の幹事社を務めます埼玉新聞です。よろしくお願します。

それでは、本日の記者会見内容につきまして市長から説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

本市の冬の風物詩ともなりましたさいたま新都心のけやき広場や浦和駅前などのイルミネーションが目を楽しませてくれています。今年も残すところ2週間となりましたが、インフルエンザやノロウイルスが流行しています。手洗い、うがいを忘れずに、体調を崩すことなく新年をお迎えいただければと思います。

それでは、議題の説明に移らせていただきます。

### 市長発表：議題「平成28年度『さいたま市民意識調査』調査結果をお知らせします！」

本日の議題は、平成28年度さいたま市民意識調査についてでございます。

今年の6月に実施いたしました本調査では、5,000人の市民の方に回答を依頼し、約2,400人の方から回答をいただきました。この青い棒グラフがさいたま市が「住みやすい」と感じる人の割合でございます、この緑の折れ線グラフはさいたま市に「住み続けたい」方のグラフでございます。さいたま市が「住みやすい」と感じる方は、今年は83.2%でございます。また、「住み続けたい」と答えていただいた市民の割合は84.6%ということで、それぞれ過去最高の数値を示すことができました。

「住みやすさ」は、「さいたま市CS90運動」の目標値であります、2020年までに90%と申し上げておりますが、あと6.8 (%ポイント) となっております。

続きまして、年代別に見た評価でございます。「住みやすさ」の評価でございますが、18歳から29歳、それから30歳代、これらを男女でそれぞれ比較したものでございます。今年度につきましては、男女とも30歳代までの比較的若い世代の評価が非常に高い結果となりました。特に女性からの評価が大変高く、90%に迫るものとなっております。

特に長期のトレンドで見ますと、女性の18歳から29歳、平成19年度、このときは20代以降でありましたけれども、これについては76.5%だったものが今回89.4%まで12.9 (%ポイント) 増加しました。また、女性の30歳代につきましては、平成19年度には71.2%でありましたけれども、今年は17.7ポイント増加しまして88.9%ということで、女性の若い世代に大変住みやすいという評価をいただいていると感じております。

続きまして、在住の方にさいたま市はどのようなイメージを持っていますかということのご質問でございますが、結果の上位6項目を左から並べてございます。青い棒グラフで示したのが在住者、緑の棒が在勤者の数値でございます。在住者、在勤者ともに、「買い物など生活に便利なまち」、あるいは「交通の利便性が高いまち」が半数前後となっております。ともにさいたま市を暮らしやすいまちとして評価いただいていると感じております。

一方で、「居住・生活環境のよいまち」などにつきましては、まずこの部分について言うと、在住者は非常に高い数値を示していて、在勤者のほうがやや低いというギャップが出ており、また、もう一つ、「スポーツが盛んなまち」につきましては、在住者がやや低くて、在勤者がそれよりも高いという数値を示しているというのが1つ大きな特徴と思っております。

生活実感にかかわるイメージとしては、在住者が在勤者よりも多くなる傾向がありますけれども、今後も市の魅力を市内外問わず積極的に発信していきたいと思っております。さいたま市は、イメージよりも住むと大変暮らしやすいまちだといったことが言えるのではないかと思います。

次に、市の施策に対する評価でございます。満足している、あるいは不満であるというもののそれぞれトップ5を表示してございます。上位の項目については、経年で見ましても、いずれも高い数値を示しております。満足度については、「ごみ・リサイクル」がトップでございまして、2番目が「市街地整備」、3（位番目）が「公園」、（4番目が）「自然環境」、（5番目が）「道路・輸送」という数値になっております。

また、不満のトップが「道路・輸送」、2番目が「市街地整備」、3番目が「中小企業」、4番目が「公園」、5番目が「事故・防犯」という数値になっておりますけれども、こう見ますと、「道路・輸送」、「市街地整備」、それから「公園」については満足と不満足と両方数値が出ているということがございますが、この3つの項目については非常に関心の高いテーマであるということが言えるのではないかと思います。

今年度、「スマートウエルネスさいたま」をテーマに開催いたしましたタウンミーティングにおきましても、歩くための環境整備として道路整備に関する意見を多く伺っておりまして、今後も大きな課題として認識しております。また、自転車通行帯の整備を含めました道路整備を着実に進めることによって、健康面においても効果が生じると期待しております。

次に、今後重視する施策や事業についてでございます。これにつきましては、昨年度と今年度の比較をしますと、（夫体ほぼ同じでございまして、特に上位項目は引き続き上位にあり、）昨年度よりもそれぞれのパーセンテージが高くなっているという傾向がございまして、中でも「高齢者福祉」については、約4割の方々が大変重視をされるとお答えをしております。

なお、年齢層別について言いますと、男女とも子育て世代が多い18歳から40歳代までは子育て支援というのが第1位となっておりまして、子育てが一段落しまして今後の生活に意識が向いてくる50歳代以上は「高齢者福祉」が第1位となっております。

「高齢者福祉」は、30代、40代においても上位でありまして、若い世代からも関心が高いテーマとなっております。長寿化や親の介護等、将来へ備える意識がうかがえます。

2年前は15.7%で10位だった「生活環境」が増加傾向にございまして、今年はずいぶん5位に入っております。前にもお示しましたと

おり、市のイメージの第3位に「居住・生活環境のよいまち」というのがありますけれども、この生活環境に対する意識が大変高いものがある、ニーズが高くなっているということが言えるのではないかと思います。

このグラフは、縦軸を重視度、それから横軸を不満度ということであらわして、それぞれ高い数値を示している、15%以上を示しているものを集めたものでありますけれども、この中に入っているものは全て重視度トップ5に配置されておりまして、いずれも喫緊の重要施策であると考えております。

多岐にわたる市民ニーズに応じていくためには、多方面からの施策展開が不可欠であると考えております。調査結果を受けまして、市民満足度向上のため、総合振興計画をはじめとする各種の施策について全庁挙げて推進していきたいと考えております。

ちなみにこれは在勤者の調査でありますけれども、仕事帰りにさいたま市内に立ち寄ることがあるかを質問したものでありますけれども、5年間で見ますとだんだん上がってきておりまして、今は7割を超えたということございまして、主要駅周辺の整備が進んで商業施設が充実してきたことがその一因ではないかと考えております。

私からの説明は以上でございます。

## 議題に関する質問

### ○ 埼玉新聞

どうもありがとうございました。

では、市長からの説明について質問をお願いします。

初めに、幹事社として私から3点ほどお聞きします。まず、今の調査結果から特に若い世代の女性の方の評価が高いという内容がありましたけれども、市長としては、この要因というか、どういうところが女性の支持を得ていると思われるかということがまず1点で、その後の在住者と在勤者を比べたグラフがありましたけれども、その中で市長が一回さいたま市に住んでもらえれば住みやすさがわかるとおっしゃいましたけれども、その住んでもらうためには、今後どういうふうな方法で人を呼び込んで、一回住んでもらえるようにしていきたいと考えるか、要は住んでもらえればわかるわけですから、どうやって住ませるかということを考えていらっしゃるかお聞きします。3つ目は最後のアフターファイブの件ですけれども、

まちづくりが進んできたためとおっしゃっていましたが、具体的にはどこのまちなのでしょう。新都心とかを指すのかどうかをお聞きしたいと思います。

以上です。

○ 市 長

それでは、幹事社の質問にお答えをしたいと思います。

まず、女性の評価の要因でございますけれども、若い女性の評価が非常に高いということで、長期の傾向で見ますと15%近くあるいはそれ以上に上がってきているということで、ここで大きいのは交通の利便性が高いというのが1つ、それから2つ目が生活環境、3つ目がやはり比較的都市機能というか、買い物等がしやすい環境にあるという、この3つが多分大きな要素ではないかなと思っております。

またあわせて、子育て支援策等についても、さいたま市としてこれまで積極的に教育あるいは子育て支援について取り組んできておりますので、そういったものが評価されているのではないかと思います。さいたま市は非常に20代、30代の方が社会増として増えておりますので、その方々が来て住みやすいと言っただけは私たちにとっても大変うれしいことであると認識しております。

そして、2番目の住みやすさ、住めば住みやすいけれども、どうしたら住んでもらえるか、これはまさに選ばれる都市になれるかなれないかということだと思います。もちろんそれぞれが何らかの理由でさいたま市を選んで住んでくださっているわけで、人口増加についてもさいたま市は特に社会増が大変多くて、政令指定都市の中で3番目に増加をしているという都市であります。その中で、さいたま市に住みたいと選ばれることがすごく重要な要素にこれからさらになってくるだろうと思っております。

そういう意味では、まだまださいたま市の良さが発信し切れていない、あるいはさいたま市の都市としてのブランド力がまだまだ十分でないことが課題であると認識しております。これからさらにシティセールス等々を通じてより一層さいたま市の魅力を知っていただく努力をしていく必要があろうかと思いますし、またさいたま市のよさを知っていただくための施策の充実を図っていくということが重要だと思っております。

3つ目がアフター5のお話でございますが、駅周辺の市街地整備がやや

遅れている場所もありますけれども、少しずつ進んできているということがあって、さいたま新都心や浦和駅周辺についてはかなり進んできていると思っております。ただ、大宮駅周辺についてはまだこれからというところもございますので、そういったところが今後課題だと思いますし、その辺も含めてまちづくりが進んでいくと、さらにこの割合も高くなるであろうと思っております。

以上です。

○ 埼玉新聞

どうもありがとうございます。

私の個人的な考えですけれども、女性に人気があるというのはすごく将来性がありますよね。商売とかはみんな女性の心つかんだほうが強いですから、そういう意味ではいいんじゃないかと。

ほかに各社、市長の説明についての質問ある社をお願いします。

○ 毎日新聞

毎日新聞です。

この意識調査で、今概要版の3ページを見てちょっと思ったことがあったんですけども、さいたま市にどのようなイメージを持っていますかというところで、子育てのしやすいまちというところが項目としてあるんですけども、この在住者が2割ということになっているのです。今女性の評価が高いという話の中で子育て支援についてはさいたま市は積極的に取り組んできていると言ったのですけれども、この2割という数字については市の子育て支援策が十分だということの反映であるということなのか。

○ 市長

これまでも教育、それから子育て環境の整備ということでは取り組んできていますけれども、在住者の皆さん、あるいは在勤者の皆さんへの訴求度ということについては、まだまだ必ずしも十分ではないと、この数字からは読み取れると思います。(この選択肢の項目も)全体としては真ん中辺ぐらいの数字になるのですか。

○ 事務局

(全体では21.6%ですが、)20代、30代、40代の女性にとっての子育てしやすいまちということで、その年代は非常に高くなっておりませう。

○ 市長

それは何%。

○ 事務局

20代が28%、30代が34.5%、40代が32.7%となっております。

ります。

- 毎日新聞      それというのは、例えば複数項目があって、その中での優先順位としては「子育てしやすいまち」がどのぐらいの順位に来ているということですか。
- 事務局      「その他」も含めまして21項目（のうち、全体で第10位で）ございます。
- 毎日新聞      この21項目の中で概要版の3ページを見ると、その10項目だけ抜粋してあって、「子育てをしやすいまち」が上位に来ていると。これが真ん中ほどにあるということなのですね。「子育てのしやすいまち」というのは真ん中ぐらいで、市民の要望としては、「子育てのしやすいまち」というのは要望の上位に上がってきているわけですよね。これというのは、逆に言うと、子育て環境の整備に取り組んではいらっしゃると思うんですけども、満足度が高いとは必ずしも言えないのではないかと思います。
- 市長      その辺はまだまだ改善しなければいけないところ、あるいは満足度としては必ずしも十分であるということではないと思っています。
- 東京新聞      東京新聞と申します。  
住みやすい人、住み続けたい人とあるのですが、これ市全体の数字かと思うんですが、各区の区別でいくと、高いところは名区で何%で、低いところは何区で何%でしょうか。
- 事務局      「住みやすい」ということで言えば、一番高いのは中央区で92.5%、2番目が浦和区で91.5%、3番目に北区で89.4%でございます。「住み続けたい」につきましては、区別で言いますと、一番高いのは北区で89%、次に大宮区で88.5%、3番目が浦和区で87.7%でございます。
- 東京新聞      低いほうは。
- 事務局      「住みやすい」につきましては、一番低いのが岩槻区で69%、その次が桜区で71.9%、そして西区で73.9%でございます。「住み続けたい」につきましては、一番低いところが桜区の79.1%、次に岩槻区の81.4%、そして見沼区の82.8%でございます。
- 東京新聞      この数字を受けまして、大分差があるかと思うんですけども、この結果を市長はどのように分析されていますか。

- 市長 比較的主要な駅を中心、駅の周辺の区については、交通の利便性が高いということもあって、あるいは買い物する環境などから総合的に高い数字になっていると思います。比較的主要な駅から少し離れた区ということになると、その辺の利便性等々が下がるということがあって、低いということが挙げられると思っておりますが、区ごとにやはり不満を持っている、あるいはこれから重視してほしいという部分が若干違いもありますので、その辺も私どもとしても区ごとの対応ということ、施策の拡充などについてもあわせて考えながら今後CS90に向けて取り組んでいきたいと思っております。

**幹事社質問：**

- ① トリエンナーレ閉幕について、総括と反省点、改善点、3年後の開催は。
- ② 来年度の市長選について、自身の出馬の考え、選挙権が18歳に引き下げられて初の市政に関する選挙にあたり投票率向上への考えは。
- ③ 2016年の総括について、今年の漢字「繫」に対する評価・思い、今年1年どんな年だったか。

- 埼玉新聞 ほかに市長からの説明についての質問はありますでしょうか。
- では、なさそうなので、幹事社質問に移らせていただきます。
- 幹事社として代表質問させていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくをお願いします。
- まず、1点目なのですが、トリエンナーレについてです。11日に閉幕した初開催のトリエンナーレなのですが、市長としての総括と反省点や今後の改善点などをお聞かせください。それに伴って3年後の開催についてもお考えをお示してください。
- 2つ目は、来年市長の任期が満了することによって市長選が予定されていますけれども、ストレートに聞いてしまいますが、清水市長ご自身の出馬のお考えはあるかどうか、2点目として、選挙権が18歳に引き下げられてから初めての市政に関する選挙になりますけれども、投票率向上についてどのような考えを持っていらっしゃるのかお聞かせください。



3つ目は、今年は今日で記者会見は最後ですので、今年の総括をお聞きしたいのですけれども、2016年の総括、今年の1月5日に市長ご自身は今年の目標を象徴する漢字1文字について、北海道新幹線の開業や東日本連携・創生フォーラムを視野にして、「繋」という言葉を挙げられたと思いますが、それに対するご自身の評価と意思をお聞かせください。それにあわせて1年間のまとめをよろしくお願いします。

○ 市 長

それでは、幹事社からのご質問に順次お答えしたいと思います。

まず、1点目のトリエンナーレについてのご質問からお答えしたいと思います。去る12月11日で本市初の国際芸術祭、さいたまトリエンナーレ2016が閉幕を迎えました。79日間という長期間でありましたが、事故もなく無事閉幕を迎えることができ、まずは安堵しているとともに、ご来場いただきました皆様に初め、協賛をいただきました企業、団体、またサポーターの皆様、また開催にご尽力、ご協力をいただきました関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。

入場者数については、過日、旧民俗文化センター、それから旧部長公舎など主要6つの会場やイベント来場者の数をお知らせしました。10万7,758人ということでお知らせしましたが、そのほかの彩の国さいたま芸術劇場や花と緑の散歩道、また桜環境センター、大宮高島屋会場などの会場については現在集計中でございます。

そのほか、30万人の目標として掲げた中に市民プロジェクト48（事業）、それから連携プロジェクト48（事業）なども含まれておりますので、それらについては現在各団体から報告を待っているところでございます。この人数についてはもう少しお時間をいただければと思います。

ただ、全体としては、目標としていた市民プロジェクト、連携プロジェクトも入れると、30万人近くなるのではないかと期待をしております。まとも次第報告をしたいと思います。

また、今回の開催を経て、多くの市民の方々にこの文化芸術の魅力を感じていただけたのではないかと考えております。引き続き文化芸術都市さいたま市の創造に向けた取組を進めていきたいと考えております。

なお、この芸術祭についての広報PRや事業費、また、職員の超過勤務の問題など市議会等からご指摘をいただいた点については、真摯に受けと

めて今後に生かしていきたいと思います。

事業自体の評価については、現在来場者へのアンケート調査結果などを踏まえまして、開催効果分析調査を行っているところでありますので、この調査の結果等を踏まえまして総合的に判断したいと考えております。

いずれにいたしましても、今回初めての事業でありましたので、反省すべきところは反省し、また改善すべきところは改善して次回に生かしていきたいと考えているところでございます。

それから、3年後の開催についてでございますが、さいたま市文化芸術都市創造条例の前文にあるとおり、文化は長い歴史と風土の中で育まれていくものであり、時間をかけて文化の振興を図る必要がありますので、国際芸術祭を継続的に開催してまいりたいと考えております。

なお、一方で2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催も予定されております。本市もバスケット及びサッカー競技の会場市になることから、多くの人々が訪れていただける大変大きなチャンスでもございます。したがって、次回の開催については東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとしての実施も視野に入れながら、開催時期、それからやり方等々については今後、来年度検討していきたいと考えております。

次に、2つ目の来年の市長選について、まず出馬の考えはについてでございます。11月初旬まで行われましたさいたま市議会9月定例会の一般質問でもお答えしましたが、現在、市長選に関してどうするかということについては、まだ少し早い気がしております。私に与えられた4年間という任期がございます。残り半年ございますのでその中で全力を尽くして、選挙の際に市民の皆さんとお約束をしてきたことを着実に実現していきたいと考えております。

また、その4年間の成果等が見えてくる中で、最終的にどうするのかという判断をすることになるだろうと思います。

2つ目の選挙権が18歳に引き下げられてから初めての選挙ということで、どのような対応をするかということでもありますけれども、選挙年齢が18歳以上に引き下げられてから初めての国政選挙が7月に行われました参議院議員の通常選挙でありました。これまで以上に大変注目を集める選

挙となったと感じております。

こうした中で、選挙管理委員会では高校生との意見交換会の開催や大学生との啓発動画の共同制作、さらには高校や大学での出前講座の実施など、若年層に向けた新たな取組を積極的に進めてきたところでございます。

この参議院(議員)通常選挙でのさいたま市の全体の投票率は53.55%と、前回、平成25年度と比べますと2.77ポイント増えて、埼玉県平均の51.94%も上回る結果が出ました。

このうち、新たに有権者となりました18歳、19歳の投票率は55.38%となっておりまして、特に18歳は60.24%と市民全体の投票率を大きく上回る結果となりました。一方で、20歳代、30歳代の投票率については、依然として他の世代と比べ低いという結果になっておりまして、今後はこれらの世代への啓発をより一層強化するとともに、18歳、19歳の政治参加への意欲を維持するための啓発を継続して行っていくことが必要であると考えております。

いずれにしましても、詳細な取組については選挙管理委員会で決定をされますが、来年予定のさいたま市長選挙におきましても、(選挙権年齢が18歳以上に引き下げられてから)市政としては初めての選挙ということもございまして、投票率向上に向けて、投票環境の整備、あるいは若年層に向けた啓発活動を引き続き効果的に進めていただくことを期待したいと思っております。

続きまして、3番目の2016年の総括ということでございます。今年、さいたま市が誕生してちょうど15年という節目の年でもございました。先月の11月1日現在で人口が128万人をついに超えました。持続的に成長、発展し続ける大都市となったと感じております。

今年の3月に大臣決定されました国土形成計画、首都圏広域地方計画におきまして、首都圏の対流拠点としてさいたま市が、また大宮が位置付けられたことは、本市にとっても大変大きな出来事であったと感じております。首都圏広域地方計画は、本市にとって大変力強い追い風になると考えています。

本市におきましても大宮駅グランドセントラルステーション化構想の策定に向けて、今年の8月に推進会議を設置して協議を始めたところであり

まして、構想実現に向けて前進をした年となったと感じています。

昨年に引き続きまして、新幹線沿線自治体によります東日本連携・創生フォーラムを開催することができました。フォーラムでは東日本の広域周遊ルートの検討等について研究会を立ち上げることなどが確認もされました。また、このフォーラムを契機として、東日本地域の食材あるいは商材をさいたま市内で販売または活用するという民間レベルでの取組であるとか、新たなまちのにぎわいを創出するさまざまなイベントが実施されるなど、今までにない地元事業者の連携も生まれ、地域の活性化や経済の好循環が生まれ始めてきたところでもあると考えております。

年頭の記者会見におきまして、今年の漢字をつながるあるいはつなぐという意味の文字であります「繋」という字を掲げて、本市が東日本全体をつないでいくという役割を持つことになるだろうと申し上げました。まさしく今年には本市が東日本の交通の要衝としての強みを生かして、広域的な連携、交流につなげるきっかけを築けた年になったと考えております。

また、今年度が最終年度であります「しあわせ倍増プラン2013」、また「行財政改革推進プラン2013」の取組についても着実に進めていくことができました。例えば「しあわせ倍増プラン」におきましては、保育所であるとか、あるいは放課後児童クラブの待機児童解消に向けて、今年度の目標を大きく上回る定員の拡大を図ったほか、継続的に行う健康づくりへの取組を支援する健康マイレージを全市で実施することができました。

両プランともおおむね現時点では8割の事業が達成できるのではないかという見込みとなってきております。これまでの取組に見合う成果が得られたと私自身は考えております。残された計画期間の中ではありますが、少しでもこの取組が前に進むように、成果が上がっていくように努力をしていきたいと考えております。

先ほども冒頭の説明でございましたけれども、今年度実施をいたしましたさいたま市民意識調査の結果で、さいたま市が「住みやすい」と感じる割合もおかげさまで少しではありますがありますけれども上昇し（83.2%）、「住み続けたい」と感じる市民の割合も上昇し84.6%ということで、過去最高の数値となることができたと思っております。

2020年、90%という目標にはまだ少しハードルがあらうかと思ひ

ますけれども、引き続き全庁を挙げて市民満足度90%を目指して、各種施策、また事業を着実に進めていきたいと思っております。

以上です。

## 幹事社質問2に関する質問

- 埼玉新聞      どうもありがとうございました。  
今の幹事社質問のお答えに対する質問がある社はお願いいたします。  
じゃ、まず私から1点だけ。しつこくて申しわけありません。市長選のご自身の出馬についてなのですけれども、4年間の総括が出そろってきたところに改めて考えたいとおっしゃってございましたけれども、それは大体何月ごろになりそうか、言える範囲で結構です。
- 市 長      まだもう少しということになると思いますけれども、具体的なタイミングとか時期というのは、まだわかりません。
- 埼玉新聞      わかりました。ありがとうございます。  
じゃ、ほかに質問ある社、どうぞ。

## 幹事社質問1に関する質問

- 読売新聞      読売新聞と申します。  
先ほどトリエンナーレの件で、入場者、最終的には30万人近くなるのではないかというふうにおっしゃっていましたが、その根拠について、もしあるのであれば、何か見通しとかがあるのであれば教えていただきたいと思えます。  
あと、以前会見で、経済波及効果について22億円ぐらい見込んでいるということでしたけれども、この経済波及効果についての見通しもあわせてお願いします。
- 市 長      来場者数については、当初からアートプロジェクトと連携プロジェクト、それから市民プロジェクト等を合わせて30万人ということで目標を設定してきました。現時点でアートプロジェクトの一部についてこれまでも発表させていただいてきましたけれども、まだ未集計のところと、あと市民プロジェクト、連携プロジェクトがまだはっきりしないので、何とも言えない状況ではありますが、ただおおむねそれら個別の事業で、わかる範囲の（~~その~~集計値）をピックアップしていくと（~~それ~~30万人）近くなるのではないかという見込みであります。まだこれは具体的な数値が上がって

きておりませんので何とも申し上げられませんけれども、(それ30万人) 近くはいくのではないかという感じを持っているということです。

それから、経済波及効果については、この人数が確定しませんが計算できないということがございますので、なるべく早くそういったものを把握して、それで経済波及効果等についてもなるべく早く発表ができるように取り組んでいきたいと思っております。

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

トリエンナーレについてお伺いしたいと思います。2点あるのですが、1つは先ほど議会から広報、PRとか事業費についていろいろご指摘があったとおっしゃっていたんですけども、現時点で結構なんですけど、広報、PRについては誰に対しての広報、PR、市外、市内あったと思うんですけど、ちょっと足りなかったとか、それをどういうふうに市長として考えていらっしゃるかと。

あわせて事業費、議会からの指摘が多分多過ぎるという内容だったかと思いますが、市長としてもこの点について今後振り返られるとすれば、どういう視点をもって事業費の規模というものはかかっていられることになるのかという点。

もう一つは、来年度予算についてなんですけれども、先日委員会にお出になられたときのご答弁を伺っていますと、開催はもう一回少なくともしたいと思っているんですけども、その開催を前提としての予算というのは来年度は上げられないというようなことだったかなというふうに私把握しているんですけど、そういう認識でよろしいかということと、とはいえ、今年の開催を受けて、作品のレンタルとか買い取りも検討されているようなお話だったので、以前、そういうような今回の開催を受けた予算というのは、来年度上げられる可能性はあるのかということ。このことについて伺いたいと思います。

○ 市長

まず、広報についてでありますけれども、これも今後の評価の中でしっかりと精査、検証していきたいと思っておりますが、個人的な私の感覚としては、対外的なものはともかくとして、市民向けの広報ということでは必ずしも十分にできていなかったのではないかと思っております。より多くの方々に知っていただき、参加していただきたいという思いで進めてき

た事業でございますけれども、参加する機会はこれまでよりもかなり広がったという認識は持っております。ただ知っていただくというところがやはり必ずしも十分でなかったという感じはしておりますので、対外的な、市外の方々への広報ということも重要ですが、あわせてやはり市民向けの広報ということについてはより一層強化をしていくということが重要だと、一つの反省点だと感じております。

それから、2つ目の（予算の費用事業費の規模）についてでございますけれども、今回が適正だったかどうかの評価については、今後、経済効果、広告効果あるいはそれ以外の中長期的な効果ということも含めて総合的に判断されるべきものだろうと思っております。それらを踏まえて、この事業費の予算が適正であったのかどうかということについては考えていかななくてはいけないと思っております。

その中で、やはりできるだけ予算はかけないにこしたことはないということもございまして、またどうしても必要な経費というのも当然出てきますので、そういったことも踏まえて、短期的な効果あるいは評価、中長期的な効果、評価をあわせて総合的に判断していくことが必要と思っております。

それから、来年度予算については、議会の委員会でも申し上げましたが、事業費、トリエンナーレ関連の事業費ということでは計上する予定はございません。ただ、このトリエンナーレの内容を精査したり、あるいは次回以降につなげていくためにいろいろな検討も必要です。あるいはそういった事務ベースの経費等については計上する可能性もあると思います。ただ、基本的にはトリエンナーレという関係の事業では予定はしておりません。

- 朝日新聞 確認ですけれども、作品の維持とかというような経費というのは発生してくる可能性がある。もし市が入手をしたり。
- 市長 そうですね。そういった可能性はなくはないと思います。
- テレビ埼玉 テレビ埼玉ですけれども、トリエンナーレについてなんですけど、先ほどのお話の中で2020年のオリンピック・パラリンピックの文化プログラムとしてということでお話あったんですが、それは3年に1度というトリエンナーレの意味だと思うのですが、そういう枠を超えて、そこに合わせて開くというイメージなのでしょうか。

- 市長 　　今回は、さいたまトリエンナーレ、3年に1回という意味の国際芸術祭がトリエンナーレという名称でありますけれども、基本的には国際的な芸術祭を行うことで、人材の育成であるとか地域の活性化につなげていこうという本来の目的がございましたので、その目的に照らし合わせながら、より効果的な手法あるいは時期等々もあろうかと思えます。基本的にはこの国際芸術祭について継続的に開催していきたいと考えておりますけれども、そのタイミングあるいは手法、あるいは事業内容等については今後検討して、より市民の皆さんにも理解をしてもらい、今回のいろいろな事業を通じてあった反省点、あるいは改善点、あるいは課題などをクリアしながら実現していきたいと考えております。
- テレビ埼玉 　　続けてなのですが、ということは必ずしも、3年後となると2019年だと思うのですが、2019年の開催を目指すというわけではないのですか。
- 市長 　　なかなか目指さないとも言えないですし、それはオリンピックのプロジェクトも2020年だけに限定されるものなのか、あるいは前年からそれが取り入れられるものなのかということもまだはっきり把握しておりませんので、そういったことも含めて検討していきます。
- より多くの方々に来ていただけるタイミングが望ましいのではないかと考えておりますので、そういったことも含めながら考えていきたいと思っております。
- 読売新聞 　　今の部分に絡めて。読売新聞と申します。
- そうしますと、2019年でなくなると、名称も変わってくる可能性があるということですか。ビエンナーレ、クアドリエンナーレとか。
- 市長 　　その辺も含めて、今後のあり方、あるいはやり方、時期等々については微調整というか、あるいは見直す可能性はあると思えます。ただ、基本的には継続してやっていく。短期間だけで得られる成果のものではありませんので、継続をしてやっていくことで、そういった文化の振興発展、あるいはそういった人材の育成ということにつながっていくと思っておりますので、そういった基本的な考え方は持ちつつ、反省すべき点や、改善すべき課題などを精査しながら、より有効なやり方、あるいは考え方の中で進めたいと思っております。



- 読売新聞 続けて、今回まだトリエンナーレの総括としては、来場者数がまだ確定しておらず、経済波及効果もまだこれから精査していく必要があるとのことでしたけれども、現時点でこの開催時期とかやり方について、もう少し検討する必要があるのではないかというふうにおっしゃったその背景といえますか、要因的な部分ですが、どういうところをごらんになってそういうふうに感じたのかということをご説明いただけますでしょうか。
- 市長 やはり多くの予算を使って実施をする事業でございますので、できるだけ多くの方々に来ていただき、多くの市民に参加いただける環境づくりが必要だろーと思ひます。そのために、今回のいろいろな点を、マイナスばかりではなくて、いいこともたくさんありましたし、あるいは課題等々、これらを十分に把握をして、その中で検討していくという意味で申し上げているわけで、時期とやり方だけを出しているわけではなくて、時期や、そういったことも含めてということでもありますので、今回の事業を十分に精査して、そしてその上で次回につなげていくという意味でご理解いただければと思ひます。
- 読売新聞 現時点で何か、まだ来場者数も経済波及効果も確定していませんけれども、現時点で市長がお感じになっている、この辺もう少しこうしたいほうがよかったんじゃないかと、課題と感じていらっしゃる部分、この点はいかがでしょうか。
- 市長 良かった点については、やっぱりアートプロジェクトと連携、市民プロジェクトと3層、あるいは4層に分かれて行かせていただいたわけですが、これについては非常に僕は良かったと思ひています。
- いろいろな方々、市民を巻き込むことができたと思ひておりますけれども、もう一方で芸術の、ある意味では難しさでもあろうと思ひますが、説明をしたり、中身を理解していただいて、それを広げていくということの大変さ、難しさということも、先ほどPRというような言い方をしましたけれども、その辺もあわせて非常に痛感をしたところでありまして、おかげさまで後半はかなりロコミであるとか、あるいはSNSなどで来ていただいた方々が、いろいろな形で発信をしていただいたというようなこともあって、後半かなり来場者が増えたという状況もございました。本来であれば、もう少し早い段階でいろいろな情報が発信できたり、わかりやすく

お知らせができればよかったと思うのですが、ここについては本当に工夫をしていく必要があると思いますし、今回オリジナルの作品が多かったということもあって、かなり直前にならないと実際にどういったものになってくるのか、どういうものなのかということが少しわかりにくかったということで、PRということについては遅れてしまったという印象を持っています。ですから、お知らせする期間がとれればとれるほどわかりやすくできるのかという部分もありますし、大きいことも、小さなことも、いろいろなことをきちんと検証したり出し合って、その上で次はよりいいもの、より市民の皆さんのためになること、またさいたま市全体の発展につながることをやっていかなければならないと感じておりますので、そういったことも踏まえて、次回はそれらをできるだけ改善してつなげていきたいという思いで申し上げているわけでございます。

○ 読売新聞

今のところをふまえて、もう2点ほどお願いします。

1つは、この開催に向けての準備期間として、やはり今回は少し期間的に時間的なものは足りなかったかなという印象を持たれていらっしゃるのでしょうか。

それからもう一点、先ほども広報について、市民向けの広報をよりしっかりしていく必要があるだろうというふうにおっしゃっていましたが、ここがちょっと足りていないなというふうにお感じになった出来事とか、何か場面とかというのはあるのでしょうか。

○ 市長

やはり知っている方もいらっしゃるのですが、知らない方もかなり多かったというのは事実としてあろうかと思えますし、また名前は知っていても中身、どんなことをやるのかというところまで認識されている方が少なかったということもあろうかと思えます。

これは僕の個人的な印象でありますので、実際そうだったかどうかも含めて今後検証していくことになると思います。いずれにしてもなかなか伝えるにくいタイプの事業ではありますけれども、やはりできるだけわかりやすく発信をしていくということ、特に市民向けに発信していくということは、次に向けて大きな課題であろうと思っております。

○ 読売新聞

時間的なことはどうですか。

○ 市長

準備を3年間やってはきたわけですが、アーティストが決定し、

準備して制作をしていただいて、発表していただくという中で、準備の期間としては十分でなかったとは言えませんが、情報発信をするタイミングはもう少し早くできるように心がけたほうがいいのではないかとか、あるいはどの段階でどの辺までの情報とか、まだ完全に作品ができ上がるということが、当然オリジナルであればあるほど、さいたま市向けにさせていただく作品をつくれればつくるほど当然遅れてしまいますので、やはり情報の発信の仕方というのが、一遍に全部が出せるわけではないと思いますけれども、そういった出し方のタイミングについては、もう少し細かい工夫もあっていいと個人的には思っています。

- 産経新聞 産経新聞です。  
先ほど作品の維持費のお話があったと思うんですけども、現時点で何かこういうふうに残していくですとか、活用していくと決まっている作品があれば教えてください。
- 事務局 幾つか候補がございますが、まだ作家のほうから正式なお答えはいただいておりませんので、今の段階では申し上げられない状況でございます。  
ただ、幾つか方向性としてはいい返事ももらえそうなところもございますので、さいたま市内にさいたまトリエンナーレの2016のレガシーとして、幾つかの作品は残していきたいと考えております。
- 埼玉新聞 ほかに幹事社質問に関して質問のある社はどうぞ。
- 読売新聞 またPRの点なのですが、チラシとかパンフレットもかなり刷って、市内の方は多分トリエンナーレの存在自体は、かなり皆さん存在は知っていたかと思うのですが、市長のさっきのお話伺っていると、芸術の難しさというふうにおっしゃっていましたが、その展示の中身だったり、そういった内容の部分について、市民、市内の人への周知度がちょっと足りなかったかなということなのではないでしょうか。
- 市長 そういうことも含めて、もちろんトリエンナーレをやることを知っているけれども中身は知らない方、あるいはトリエンナーレをやること自体知らない方という方も当然いらっしゃると思います。特に会場に足を運んでいただく、あるいは作品をつくるプロセスに参加をいただくという方々には、やはりトリエンナーレがあるということだけではなくて、それプラスアルファどんな作品がつけられるか、つくっていくのにどう協力し

てほしいのかという、もう少しプラスアルファの情報として、必ずしも十分に伝わっていききれなかったのではないかと考えております。

○ 毎日新聞

毎日新聞です。

ちょっとトリエンナーレの話ではなくて、先ほど今年の漢字の中で出た東日本連携のお話なのですけれども、先日の東日本連携・創生フォーラムの中で、大宮駅周辺への交流拠点の設置や広域周遊ルートについて、各自治体で研究会を設立するというお話があったのですけれども、今のところ話が具体的に進んでいるところがあれば教えていただきたいんですが、時期などを。

○ 市長

では、それは後ほど担当のほうからお知らせをさせていただきたいと思っております。(会見後追加：東日本連携広域周遊ルートの検討については、研究会についての本市設置要綱案を連携各自治体に通知し、設置する研究会の早期立ち上げに向けて、研究会の内容等について確認を行っているところ。連携拠点、情報発信拠点（(仮称)東日本連携支援センター）の整備については、地元商業者及び連携各自治体等による意向調査等を実施予定であり、それらを通じて効率的かつ効果的なプロジェクトとするため、現在、本市12月定例会補正予算議案として議案の上程・審議を予定しているところ。)

○ 埼玉新聞

幹事社質問についてはよろしいでしょうか。

では、そのほかの質問で自由に、ある社はどうぞ。

**その他：MICE対応施設サウンディング型市場調査結果について**

○ 日本経済新聞

日経新聞と申します。

大宮の桜木町のMICEの誘致についてお伺いします。サウンディング型市場調査が結果が出て、大宮に備えることは十分可能であるが、今回示した与条件を基本に公募した場合、民間企業からの提案の判断に至らない可能性も想定されるというふうに評価されていて、弱含みの評価をされたなと理解しているのですけれども、今年度中の契約だと思いますが、市長のご見解をお願いします。

○ 市長

市営桜木駐車場用地を活用したMICEの施設の件でございますが、MICE対応施設の誘致ということで検討を進めております。その一環とし

て、公募条件等を検討するために、民間企業を公募をして、サウンディング型市場調査を実施させていただきました。

サウンディング調査の結果として、大宮という都市のポテンシャルに対する評価は高いものがございました。市としてのMICE戦略を策定するとともに、事業スキームのさらなる工夫であるとか、あるいは周辺環境との問題、こういったものを整えることで、このMICE対応施設を大宮に備えることは十分に可能であると考えております。ただ、一方で調査に参加した企業からは、市が想定する与条件、あるいはスキームについては課題もあるというご意見を頂戴しておりますので、市としては引き続きこの公募条件、こういったものであれば参加してもらいやすいのか、あるいは事業のスキーム等について、もう少し検討していかなければならないと考えております。

いずれにしても、2020年に開催されますオリンピック・パラリンピック、これは大きな事業創出のチャンスであるし、またPR効果も想定できるということもございますので、このチャンスを逃すことなく進めていきたいと考えております。ただ、若干スケジュールについては遅れが生じておりますけれども、引き続き努力をしていきたいと考えております。

○日本経済新聞 引き続き、2020年オリンピックまでに開業するというスケジュール自体は変わらないけれども、今年度中の契約……

○市 長 そのつもりでおります。

○日本経済新聞 今年度中の事業者の選定については、やや遅れが生じていると。

○市 長 若干そうですね。

○日本経済新聞 今年度中にはというスケジュール感の変更は。

○市 長 今後のスケジュール感については、まだ担当のほうと調整をしている最中でございますので、明確なことは申し上げられませんが、かなりスケジュール的には厳しい状況になってきておりますので、できるだけ早い時期に公募もできるように環境整備をしていきたいと思っております。

○日本経済新聞 今回示されていた与条件の中に、いろいろ規模、200室程度とか、敷地については無償貸し付けするとかという条件が示されていますけれども、課題があるとすると、こういった条件が挙がっていらっしゃるのでしょうか。

- 市長 周辺のインフラの問題であったり、あとMICEの施設そのものの運営ということについては、やはり民間事業だけだとリスクもあるというお答えもございました。ですので、そういった点など総合的に勘案して、市としては、できるだけ市の負担が少ない形で事業化ができればという思いを持っておりますので、その中でこういった与条件を生み出せるのかということについては、私どもとしても検討していかなければいけないと考えております。

### その他：来年度の予算編成について

- 毎日新聞 毎日新聞です。
- 来年度の予算についてなんですけれども、今年の9月に来年度予算の編成方針というものが示されたと思うんですけれども、そこでは約400億円超の巨額の財源不足が予想されるということで、だんだんと煮詰まってくる時期かなと思うんですが、予算規模は縮小すると見てよろしいのでしょうか。それとも前年度並みなのか、今年度並みなのかということをお教えいただきたいんですが。

- 市長 平成29年度の当初予算については、今お話ありましたとおり9月15日に予算編成方針を通知して、予算編成作業を指示したところであります。その後、各局から10月20日に予算要求を受けまして、現在財政局のほうで予算要求の内容、また金額等を精査中でございます。

今後の予算編成スケジュールとしては、年内を目途に財政局案というのがまとまりますので、来年早々に市長査定を行って、そして予算案を決定していきたいと考えております。また、各局の予算要求状況については、国の制度改正など変動要因もございますので、固まり次第公表したいと思います。

なお、平成29年度の予算編成における歳入歳出については、社会保障費の上昇とともに都市基盤整備、あるいは老朽化した公共施設対策、本市が成長するための施策など、財政需要が大幅に拡大する見通しでございます。その中でどう歳入歳出の折り合いをつけながら予算編成をするかということで、まだ具体的な数字まではお答えができないという状況でございますけれども、いずれにしてもこれまでの5年から10年が大変重要な時期であるということですのでずっと申し上げてきております。そういう意味で

は、それ以降にも持続可能な成長を遂げられる、そういった都市にするための大変重要な予算だと思いますので、そういった視点を十分踏まえながら編成を行っていきたいと思います。規模については、もう少々お待ちいただきたいです。

○ 毎日新聞      あと追加でなんですが、その予算編成方針の中で真に必要な事業の検証を進めるといふ表現もあったんですけども、それについても今取り組んでおられると思うんですが、例えばどのような分野でより効率化、事業の効率化というものを図れそうでしょうか。

○ 市長          これまでも、「行財政改革推進プラン」をつくってさまざまな視点から、要するに歳入を増やすということと歳出をできるだけ削減するというか、効率的に使うという視点で取り組んできていますので、当然その延長線上で考えていくということになりますけれども、ただ、今まで以上に収支ギャップが大きいということもございますので、さらにその中でどう折り合いをつけていくかというところは、具体的な、どうしても必要な事業というのが、市長査定の中で復活予算という形で出てきますので、その中で判断をして決定していきたいと思います。

もちろん分野で言えば、子育て支援ですとか総合戦略、あるいは総合振興計画等々で盛り込んでおります重点的に取り組むべき事項をベースとしながらということになると思います。ですから、そこで掲げている事業を基本的には重点的に取り組みつつ、どう財政の状況とバランスをとっていくかということで、予算編成をしていきたいと思います。

### その他：東京オリンピック・パラリンピック開催地としての費用負担について

○ 朝日新聞      朝日新聞です。

来年度予算に直接響くかどうかは、ちょっとまだわからないと思うのですが、東京五輪のオリンピック・パラリンピックの開催に向けて、開催地の費用負担というのが国と組織委員会と都との間でまだ決まらない、遅れている状況だと思います。横浜のバレーボールの会場の件なんかもありましたけれども、まだどのぐらいさいたま市が開催地として費用負担を受けるかわからない状況が続いているのですが、都なり組織委員会なりに注文というか、どんなことを市としては訴えていきたいと考えているでしょう

か。

- 市長 当初オリンピックに立候補する際には、基本的には（東京都と大会組織委員会）で、（東京都大会組織委員会）で出せない部分については、（東京都と）国のほうで予算については対応するというこの前提の中で、いろいろ協力をしてきた経緯がございます。

基本的には、その方針がまだ、要するに崩されたということではないと私たちは考えておりますけれども、もしそれが変わってくるということであれば、きちっと説明していただく必要もありますし、関係する自治体もさいたま市のみならずたくさんございますので、やはり基本的な考え方をしっかりと守っていただくということが重要ではないかと思えます。

- 朝日新聞 そのあたりの説明責任というのは、都と組織委員会のほうにしっかり求めていくと。

- 市長 そうですね、そういうことが最低限必要であると思えます。

### その他：さいたま赤十字病院と県小児医療センターの開業について

- 朝日新聞 別件になるのですが、この年末年始で、さいたま新都心の医療拠点両方も、赤十字のほうも県小児医療センターのほうも開業となるんですが、改めてなのですけれども、それに対する受けとめと、あとにぎわいの創出という意味での兼ね合いの部分をお伺いしたいのですが。

- 市長 さいたま新都心に、新しくさいたま赤十字病院と県の小児医療センターとが整備をされて、年末ないし年初からいよいよ事業が開始されると伺っております。

当初は、さいたま新都心エリアとしては、にぎわい創出ということを中心としてまちづくりをしていくという方針でありましたけれども、その後、にぎわいプラス安全安心ということで、方針を一部変えましてやらせていただいております。その中で、今年、首都圏広域地方計画の中で、さいたま新都心を中心として首都機能のバックアップ拠点、災害があった時の首都機能のバックアップ拠点という位置付けもいただきました。そういう意味では、この2つの病院がやはり安全安心というものに、市民、県民、それから首都圏全体の安全安心につながっていく、そういった大きな役割を果たされる病院になってくるのだろうと思っておりますけれども、そうい



う意味ではそういった安全安心を守る病院として、また地域住民からも信頼されて、また親しまれる、そういった病院として発展されることを期待したいと思います。

### その他：クリテリウムのさいたま新都心での開催について

- 朝日新聞 市としては、クリテリウムが新都心をこれまでも使っていますけれども、同じように新都心で開催したいという思いはあるのは変わらないでしょうか。
- 市長 市としては、コースについては、やはり安全安心のところに大きな影響を与えるということになってはいけませんので、大きな影響を与えなくても済むような形で、いろいろな形でご提案させていただいたり、協議をさせていただいております。その中で考えておりますので、安全安心を損なうものにはならないと考えて、またそれをベースに実施をしていかなければいけないと思っております。
- 埼玉新聞 そろそろ時間も時間ですので、ほかにある社は。  
どうもありがとうございました。今年1年間ありがとうございました。  
以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進行 市長定例記者会見を終了させていただきます。  
次回の開催は年明け1月5日木曜日、11時からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。  
ありがとうございました。

午後2時41分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。